

2023年度 事業計画

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

伝統のかおり高い学園を目指して

学校法人 修道学園

2023年度 学校法人修道学園事業計画

＜法人本部＞

| 主要項目 | 具体策 | 所管部局 | 実施月 |
|---------------|---|-------|-----|
| 1 法人運営の充実 | (1) 法人としてのガバナンス体制等の強化 ・法人本部組織体制等の更なる充実 ・BCP(事業継続計画)の充実 ・危機管理体制等の整備・充実 | 法人事務局 | 年間 |
| | (2) 積極的な情報発信、情報公開の推進 ・各種メディアを活用した積極的な情報発信 ・インターネット等の活用による情報公開 ・関係法令に基づく諸資料の公表、公開 | 法人事務局 | 年間 |
| | (3) 三様監査の充実 ・監査法人との緻密な連携 | 法人事務局 | 年間 |
| | (4) 設置学校に係る関係所轄庁等への対応 ・大学の学科改組等による新学科開設の準備対応 ・学則改正等関係所轄庁等への諸手続き | 法人事務局 | 年間 |
| | (5) 人事、給与等処遇に係る基本的事項の整備 ・「働き方改革」に向けた具体的対応策の検討 | 法人事務局 | 年間 |
| | (6) 内部統制体制等の基本的方針の策定、各種施策の整備 ・内部統制に関する基本的方針案を作成 | 法人事務局 | 年間 |
| 2 私立学校法改正への対応 | (1) 私立学校法改正(理事と評議員の兼職禁止、評議員会の議決機関化、常勤監事・会計監査人の配置等)への対応 ・理事会下に検討委員会を設置 ・理事会・評議員会・監事・会計監査人等の在り方を検討し対応案を作成 | 法人事務局 | 年間 |
| 3 資産の運用 | (1) 既定の基本方針、中期資金運用計画変更等に基づく資金運用の継続(資産分散したポートフォリオの継続形成) (2) 法人として統合した資産運用の実施(資金運用委員会) | 法人財務課 | 年間 |
| 4 施設の整備 | (1) 大学部一体育館の建替等の実施 (工事請負変更契約締結、建築確認申請、着工) (2) 中高部一本館の建替事業等の継続 | 法人財務課 | 年間 |
| 5 将来構想の策定 | (1) 学園将来構想の策定 ・学園全体の将来構想の策定 ・各設置学校の中・長期計画との調整 | 法人事務局 | 年間 |
| 6 その他 | (1) 学園創始300年に向けて ・学園300年史編纂の継続 ・学園300年記念事業等の企画・準備 (2) 恒常的な寄付金の募集 | 法人事務局 | 年間 |

2023年度 学校法人修道学園事業計画(案)
 < 広島修道大学 >

| 区分 (中期事業計画) | 主要項目 | 具 体 策 | 所管 部 局 | 実施月 |
|----------------------|---------------------------|---|---------------------------------|-----|
| I. 教育と学生支援の充実 | | | | |
| 1.教育の充実と 質保証 | 1)教学マネジメントの強 化 | ①教学マネジメントの充実に向け、組織の検証・改善と、体制構築の検討 | 教学C 学長室 | 3月 |
| | | ②大学院アセスメントプランの検討・策定 | 各研究科 教学C | 3月 |
| | | ③カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの検討・策定 | 各学部 教学C | 12月 |
| | | ④学位授与の方針を踏まえた学修成果可視化の指標検討、策定(新教学システム学修ポートフォリオの検討含む) | 各学部 各研究科 教学C | 3月 |
| | | ⑤学位授与の方針を踏まえたシラバス記載についての指針の作成 | 教学C 各学部 各研究科 | 3月 |
| | | ⑥ルーブリックの運用・検証・改善・拡充 | 各学部 各研究科 教学C | 3月 |
| | | ⑦個別に実施されている各学部のFD研修の有機的体系化 | 総務部 | 3月 |
| | 2)カリキュラム改正 | ①2023カリキュラムの円滑な運用と検証 | 各学部 教学C 教職 | 3月 |
| | | ②2024カリキュラム運用の準備(時間割編成、学修の手引き発行等) | 教学C 各学部 教職 | 3月 |
| | 3)授業アンケートのあり 方と活用方法の検討 | ①教育力向上に資する授業アンケート結果の活用 | 教学C 学長室 各学部 | 3月 |
| | | ②アンケート項目の検討及び回収率増のための実施時期、実施方法等の再検討 | 教学C 学長室 | 3月 |
| | 4)学生の学習行動、学修 成果の把握 | ①IR機能強化に向けた検討 | 教学C 学生C 学長室 | 3月 |
| | | ②アセスメントプランに沿った学修成果・教育成果の把握と検証 | 各学部 各研究科 教職 教学C 学長室 | 3月 |
| | 5)実務家教員登用の検 討 | ①実務家教員数の管理、登用の検討 | 教学C 総務部 | 3月 |
| | 6)学習支援体制のあり方 の検討 | ①現状の学習支援体制の検証と全学的支援体制の再構築 | 学習支援C | 3月 |
| | | ②GPA制度を利用した学生指導方法の検討 | 各学部 学習支援C 教学C | 3月 |
| | | ③全学的支援体制としてのTA・SA制度導入の検討 | 教学C 総務部 | 3月 |

2023年度 学校法人修道学園事業計画(案)
 < 広島修道大学 >

| 区分 (中期事業計画) | 主要項目 | 具 体 策 | 所管 部 局 | 実施月 |
|--------------------------------|-----------------------|--|--------------------------|-------|
| | 7)リカレント教育の検討 | ①リカレント教育の方針を踏まえた具体的計画・内容の検討・策定 | ひろみらC | 3月 |
| | 8)ICT教育の整備 | ①ICT利活用による教育の実現に向けた計画の策定 | 情報C | 3月 |
| | | ②2024カリキュラムにおける情報教育内容の検討・策定 | | 3月 |
| 2.キャリア教育 の充実 | 1)全学的キャリア教育の 構築 | ①2024カリキュラムにおける全学的キャリア教育の内容検討、策定 | キャリアC | 3月 |
| | 2)インターンシップ体制 の整備 | ①キャリア教育におけるインターンシップ体制の再構築 | 教学C キャリアC | 3月 |
| 3.グローバル教 育の充実 | 1)海外派遣プログラムの 見直し | ①2024年度新制度(ワールド・ステージ・プログラム)実施に向けた準備 | 国際C | 3月 |
| | | ②新たな協定先(フランス、スペイン、ハワイ)への先行派遣及び受入れの実施 | 国際C | 3月 |
| | 2)海外派遣支援制度の 見直し | ①2024年度新制度(ワールド・ステージ・プログラム)のスカラシップ制度実行に向けた準備 | 国際C | 3月 |
| | 3)留学生受入れの検討 | ①留学生受入れ増に向けた、入試制度や入学後支援の検討 | 国際C 入学C キャリアC | 3月 |
| 4.学生生活支援 | 1)課外活動支援と活性 化への検討 | ①課外活動活性化のための、学生・指導者の支援制度の検討 | 学生C | 3月 |
| | | ②UNIVAS連携事業の活性化 | | 3月 |
| | 2)障がい学生支援への 対応 | ①障がい学生や特別な配慮を有する学生への修学支援の実施 | 学生C | 3月 |
| | 3)学習環境の充実 | ①学内における学生学習環境(学生自習室等)の検討、整備 | 財務部 教学C | 3月 |
| | 4)高等教育修学支援新 制度への対応 | ①高等教育修学支援新制度対象大学要件の確認、認定のための管理・対応 | 学生C 教学C 総務部 財務部 | 9月 |
| | | ②学生の授業料等減免申請の大学事務手続き・体制の検証・運用 | 学生C 財務部 | 3月 |
| | 5)奨学金制度の見直し | ①給付奨学金制度の見直し | 財務部 学生C | 3月 |
| | 6)就職支援体制の強化 | | ①新学部・新学科の特色を生かした就職先の拡充 | キャリアC |
| ②企業採用動向変更に対応したガイダンス、各種セミナーの実施 | | | 3月 | |
| ③採用直結型インターンシップに向けた支援体制整備・支援の実施 | | | 3月 | |
| ④進路状況把握体制の強化 | | | 3月 | |

2023年度 学校法人修道学園事業計画(案)
 < 広島修道大学 >

| 区分 (中期事業計画) | 主要項目 | 具 体 策 | 所管 部局 | 実施月 |
|---------------------------|--------------------------|---|------------------------------|-----|
| II. 研究活動の推進 | | | | |
| 1.研究活動の推進・支援 | 1)研究支援の推進 | ①研究活動環境整備に向けた共同研究・寄附研究規程の制定 | ひろみらC | 3月 |
| | | ②RA制度導入の検討 | 各研究科 総務部 | 3月 |
| | 2)研究費制度の見直し | ①学内競争資金制度の検証 | 財務部 ひろみらC | 3月 |
| | 3)研究活動の推進 | ①学外研究費受入れ増に向けた支援体制の強化 | ひろみらC 各学部 各研究科 | 3月 |
| 2.産学官連携リスクマネジメント | 1)産学官連携リスクマネジメント体制の検討と構築 | ①産学官連携リスクマネジメント人材の育成 | ひろみらC | 3月 |
| III. 地域連携・地域貢献 | | | | |
| 1.地域連携・地域貢献の推進 | 1)地域連携事業の推進 | ①協定先との協定内容に基づいた教育・研究・まちづくり・人材育成等についての協働推進、新たな連携協定先の開拓 | ひろみらC | 3月 |
| | | ②災害ボランティアリーダー養成講習会の定期的開催 | | 12月 |
| | 2)スポーツ・文化活動を通じた地域貢献の推進 | ①学生のスポーツ・文化活動を通じた地域貢献としての事業の実施 | 学生C | 3月 |
| 2)産学官連携の推進 | 1)産学官連携事業の推進 | ①協定先との「ひろみらシンクタンク」、「ひろみら地域協創スタジオ」を通じた連携事業の推進 | ひろみらC | 3月 |
| | | ②自治体、企業、各種団体等との連携協定の拡充 | 学長室 | 3月 |
| IV. 入試制度の整備と志願者の獲得 | | | | |
| 1.入試制度の改革 | 1)新たな入試制度の導入 | ①2024年度新入試にかかわるデータ処理業務の適切な構築と運用 | 入学C | 3月 |
| 2.入学定員厳格化対応 | 1)入学定員管理の強化 | ①定員管理厳格化に対応した入学定員・収容定員管理強化 | 入学C 各学部 各研究科 | 3月 |
| 3.志願者の獲得 | 1)O.C.等、各種イベントの検証と改善 | ①O.C.等、各種イベントの検証と実施時期、内容等の見直し | 入学C | 3月 |
| | | 2)情報発信力の強化 | ①前年度実施したWEBプロモーションの検証、さらなる充実 | 入学C |
| | | ②WEB、印刷物等を活用した学部・研究科の入試広報活動強化 | 各学部 各研究科 入学C | 3月 |
| | 3)高大連携・接続の強化 | ①早期履修プログラムの推進 | 教学C 入学C | 3月 |
| | | ②附属協創高校からの入学者数の検証と改善 | 入学C | 3月 |

2023年度 学校法人修道学園事業計画(案)
 < 広島修道大学 >

| 区分 (中期事業計画) | 主要項目 | 具 体 策 | 所管 部局 | 実施月 |
|-----------------------|--|---|--------------------------|-----|
| V. 大学組織・運営の強化 | | | | |
| 1. 組織改革・改善 | 1) 学部学科改組の検討 | ①新学部・新学科の設置を含む組織改編の検討 | 学長室 総務部 教学C | 3月 |
| | | ②人文学部社会学科設置の届出、収容定員変更の認可申請対応 | | 4月 |
| | 2) 大学院改革の検討 | ①大学院のあり方についての検討と計画書の作成 | 各研究科 教学C 学長室 | 3月 |
| | | ②大学院定員未充足への対応 | | 3月 |
| | 3) 事務組織の改組 | ①事務組織の業務内容・量の検証と人員配置の見直し | 総務部 | 3月 |
| | | ②専門的専任教職員採用の検討 | | 3月 |
| | 4) 事務システム・業務の改善 | ①職場DXの推進に向けたロードマップの作成 | 総務部 情報C 学長室 各部局 | 3月 |
| | | ②業務情報システムにおけるクラウドサービス利用のガイドライン等の整備 | 総務部 情報C | 3月 |
| | | ③新教学システムの2024年度稼働に向けた運用・検証 | 教学C 各部局 各学部 | 3月 |
| | | ④2024年度学内統合ネットワーク機器一括更新に向けた、機能・構成等の策定 | 情報C | 3月 |
| | | ⑤機関リポジトリについて、JAIRO Cloud(WEKO3)への円滑な移行及び運用 | 図書館 | 3月 |
| | | ⑥インボイス制度に対応した適応請求書発行事業者登録申請及び電子帳簿保存法への対応の検討 | 財務部 | 9月 |
| | | ⑦人事給与システム活用による、人事考課プロセスのWEB化 | 総務部 | 3月 |
| | | ⑧予算編成・執行方法の再検討 | 財務部 | 3月 |
| ⑨教職員の表彰制度の検討 | | 総務部 | 3月 | |
| 5) 新給与制度への対応 | ①2026年度の事務手当廃止に向けた段階的措置の終了による、職員自主研修の抜本的な見直し | 総務部 | 3月 | |
| 6) 文科省改正省令への対応 | ①大学設置基準等の一部改正への対応(基幹教員) | 総務部 学長室 | 3月 | |
| 2. 設備・財政基盤の強化 | 1) 寄付金制度の充実 | ①新体育館建設寄附金について、役職者等による募集活動の展開、同窓会・後援会への協力呼びかけ | 総務部 | 3月 |
| | 2) 大学設備・施設営繕工事の実施 | ①2023年度予算承認された計画営繕工事の実施 | 財務部 | 3月 |
| | 3) 新規財政計画・人事計画の策定 | ①校舎等建替計画等に基づいた長期財政計画の策定 | 財務部 | 3月 |
| | | ②長期営繕計画の調査・更新 | | 3月 |
| | 4) 学内禁煙環境の整備 | ①敷地内全面禁煙の対応 | 学生C | 3月 |
| | 5) 新体育館等の建設 | ①テニス・バレーボールコートの移設 | 財務部 | 10月 |
| ②体育館新設工事の着手 | | 11月 | | |
| 6) 校舎等建替計画(第4期以降)の見直し | ①長期営繕計画の調査結果を踏まえた校舎等建替計画の更新 | 財務部 | 3月 | |

2023年度 学校法人修道学園事業計画(案)
 < 広島修道大学 >

| 区分 (中期事業計画) | 主要項目 | 具 体 策 | 所管 部 局 | 実施月 | |
|-----------------------|----------------------------|---|---------------------------------------|------------------------------|----|
| 3.外部機関との 連携強化 | 1)同窓会等との連携強化 | ①同窓会との協力体制の強化、後援会寄附による事業実施、卒業生交流会の実施 | 総務部 キャリアC | 3月 | |
| | 2)各種団体等との連携強化 | ①自治体、企業、各種団体等との連携事業の実施 | キャリアC ひろみらC 学長室 | 3月 | |
| | 3)教育ネットワーク中国、他大学等との連携強化 | ①教育ネットワーク中国及び他大学等との連携事業の検証と改善 | 教学C キャリアC ひろみらC | 3月 | |
| 4.中長期計画の 策定 | 1)長期計画の策定 | ①「2040年の広島修道大学ビジョン(仮)」の検討 | 学長室 各部署 | 3月 | |
| | 2)中期計画の策定 | ①長期計画を踏まえた第5期中期事業計画の検討 | 学長室 各部署 | 3月 | |
| VI.危機管理・広報の強化 | | | | | |
| 1.危機管理の強化 | 1)災害時対応の体制強化 | ①訓練の実施と広島修道大学事業継続計画(BCP)の検証・改善(設備等への対応含む) | 財務部 各部署 | 3月 | |
| | 2)ハラスメント防止の強化 | ①ハラスメント防止に関わる規程・ガイドライン等の見直し | 総務部 | 3月 | |
| 2.広報・広告の 強化 | 1)広報・広告事業の検証と見直し | ①ブランディング戦略(コンセプトおよび看板設置場所等)の再検討 | 学長室 入学C | 3月 | |
| | | ②大学案内とWEBサイトの連携拡充とWEBサイトのコンテンツ拡充 | | 3月 | |
| | | ③マスコミとの連携を通じた効果的な広報広告の実施 | | 3月 | |
| 2)戦略的な広報展開 | ①校章のVIマニュアルの策定と使用ガイドラインの整備 | ②校章等の商標登録に向けた検討 | 学長室 | 3月 | |
| | | | | ③ブランディング強化の一環とした、修大グッズの販売の推進 | 3月 |
| | | | | | 3月 |
| 3)記念事業の実施 | 1)人文学部50周年事業の実施 | ①学部50周年事業の実施 | 人文学部 | 3月 | |
| 4)新型コロナウイルス感染症対策 | 1)新型コロナウイルス感染症への対応 | ①新型コロナウイルス感染症への対策の再検討と実施 | 学長室 各部署 各学部 各研究科 | 3月 | |
| VII.内部質保証 | | | | | |
| 1.内部質保証の 整備と強化 | 1)全学的内部質保証体制の整備 | ①全学的内部質保証体制の適切な運用と検証 | 学長室 | 3月 | |
| | | ②効果的な自己点検・評価に向けた体制・制度の検討 | | 3月 | |
| | 2)IRの推進・強化 | ①アセスメントプランに沿ったIRの活用 | 学長室 教学C | 3月 | |
| | | | | 3月 | |
| 3)教員活動状況評価表の見直しと活用の検討 | ①教員活動状況評価における評価項目の見直し | 総務部 | 3月 | | |
| | | | ②教員の意欲向上と大学教育活性化のための教員活動状況評価結果活用方法の検討 | 3月 | |
| 4)第4期認証評価への対応 | ①教学マネジメントに関する自己点検・評価の導入・実施 | 各学部 各研究科 教学C 学長室 | 3月 | | |
| | | | ②大学設置基準を踏まえた適切な教員数の確認と管理 | 各学部 各研究科 総務部 教学C | 3月 |

2023年度 学校法人修道学園 事業計画
 <修道中学校・修道高等学校>

【教員の部】

| 主要項目 | 具体策 | 所管部署 | 実施月 |
|----------|---|---|--|
| I. 学力の向上 | 1. 大学進学実績の向上 ①2021年度に校長が実施した「未来皆議」の報告書の提言をもとに、班活動以外にも上級生が初級の生徒と接する場面を制度として設定し、初級の成績優秀者のモチベーションアップを図り、上級生のサポートや、成績不審者の学習意欲の喚起、無気力な生徒の激励を主とした上級生のサポートをシステム化する。また、後述課題の「学校行事の見直し」の際に「縦割り」の構造を組み込む。各教科の授業改善等の課題を協議して、進学実績向上のための施策を構築していく。 ②数値目標の達成に必要な各部署の課題を明確化し、定期的にその解決の状況を確認する。 ③東大20名以上合格を数値目標とすることが修道教育に実効性を持つよう、志望者の増加に向け、生徒に対する進学指導、模擬試験対策、進学情報提供を強化する。また、生徒に対する早期からの働きかけを更に進める。 | 中高両教頭・教頭補佐 中高両教頭・教頭補佐 進路部・教務部 | 通年 通年 通年 |
| | 2. 学力観の見直し ①3・5年で今年度より新たに始まる「総合的な探究の時間」に学年、授業担当者、育成部と連携を取りながら取り組む。 ②高校新カリキュラム2年目の実施に向けた取り組みと来年度6年のカリキュラムについての検討を行う。2025年度以降の大学入試に向けての調査研究を引き続き行う。 ③高校で単位認定に問題を抱える生徒に対しての制度変更に取り組む。 ④修道ベーシック・ルーブリックを教育活動の柱とし、教職員、生徒、保護者への周知徹底をはかる。また、新学習指導要領の観点別評価を念頭に教科別、単元別などのルーブリックの研究を進める。 ⑤DM(=Diversity Management)教室を新たに設置し、学校に来づらい、あるいは学校に来ることができても教室に入りづらい生徒たちの学校での居場所を「教室に戻る準備の場」として | 教務部 教務部 教務部 中学教頭・教務部 高校教頭 | 通年 通年 通年 通年 通年 |

| | | | |
|---------------|---|--|---|
| | 確保する。DM 教室には常駐教員 3 名を配置する。 | | |
| | <p>3. 学習意欲の向上</p> <p>① 1・2年のセミナー合宿を実施する。</p> <p>② 4年の東大見学ツアーを実施する。</p> <p>③ 5年の東大・京大セミナーを実施する。</p> <p>④ 中級からの成績優秀者を顕彰する。</p> <p>⑤ コース別クラス編成の廃止により、文理別で学力を標準化したクラスを設定して、数学・英語のみの能力別授業【生徒の特殊事情を受け入れ可能とした強制力をもつもの・校内でのオンライン授業の利用も含めた授業形態】が可能な制度を策定する。</p> <p>⑥ 6年間を通した進路指導プランを模索する。</p> | <p>進路部・担当学年</p> <p>進路部・担当学年</p> <p>進路部・担当学年</p> <p>進路部・担当学年</p> <p>進路部・教務部・担当学年</p> <p>進路部</p> | <p>8月</p> <p>8月</p> <p>8月</p> <p>8月</p> <p>通年</p> |
| II. 国際理解教育の充実 | <p>1. 関連行事の実施</p> <p>① 修道ベーシック・ルーブリックを取り入れたフューチャー・リーダーズ・プログラム（以下FLP）を実施する。</p> <p>② FLPが全校的な取り組みとなるよう、具体的な検討を進める。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染症が終息した後の国際理解教育のあり方を検討する。</p> | <p>育成部・高校教頭</p> <p>育成部・高校教頭</p> <p>育成部・高校教頭</p> | <p>11月</p> <p>通年</p> <p>通年</p> |
| III. 倫理観の向上 | <p>1. 規範意識や倫理観の育成</p> <p>① 修道ベーシック・ルーブリックの「価値観」をもとに生徒が持つべき規範意識や倫理観を明確にする。</p> <p>② 遅刻指導、ICT機器の利用におけるリテラシー指導を通して「自己の信念を貫き通そうとする姿勢」の向上を養う。</p> <p>③ 交通安全に対する意識の向上、公共交通機関利用時や自転車乗車時のマナーの向上を通して「自分の言動を客観的に見ようとする姿勢」を養う。</p> <p>④ 体育祭などの学校行事や宿泊行事を、安全に実施できるよう検討し、柔軟な姿勢で準備を整える。</p> <p>⑤ 2022年4月より開始した新本館等建設に関して、学校施設の利用方法や活用などを通して「新しい学校生活」を創造し、柔軟で発展的な思考力を養う。</p> | <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> | <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> |
| | <p>2. 自治向上の精神の育成</p> <p>① 修道ベーシック・ルーブリックをもとに、生徒</p> | <p>生徒部・高校教頭・教頭補佐</p> | <p>通年</p> |

| | | | |
|------------|--|--|----------------------------------|
| | の主体性を重視した生徒会活動や班活動を通して、「協働性」「向上心」を育み、何事も自分で切り開いていく「開拓者」精神を養う。 | | |
| IV. 教育力の向上 | 1. 人事考課の実施 ①校長面談において確認された各教員の単年度目標の機能的展開が可能となるように「個人事業計画書」を吟味し、その計画の実現に向けて、適宜現場での人事配置、業務改善を図る。 ②人事考課が公正に行われるよう、授業観察、教員へのヒアリング等を通して多角的なデータの収集を図る。 | 中高両教頭・教頭補佐 高校教頭 | 通年 通年 |
| | 2. 教員研修の充実 ①業務・授業の効率化とともに、学びの深化を目指し、すでに導入したアプリや機器の基本的な機能を確実に使えるよう、部長・学年主任・教科主任＋希望者を対象とし、必要に応じてキャッチアップ研修を行う。 ②就任3年目までの教員・各教科から1人＋希望者を対象とし、年間10回を目処に「デジタル・タキノミー」をもとにした授業デザイン研修を行い、学内における研究授業発表会でその成果を共有する。 ③革新的且つ生徒の学習意欲を喚起する授業デザインを行い、効果的な授業は校内ネットワークで紹介し、教員の授業研修に利用する。また、課題のある授業に関しては、動画によりその課題を探求し、校長が直接当該教員と課題解決のための協議を行う。 ④大学入試研修をおこない、激変する大学入試情報を共有し、よりよい進路指導を目指す。 | 中高両教頭・教務部 中学教頭 中高両教頭・教頭補佐 高校教頭・進路部長 | 通年 通年 通年 通年 |
| | 1. 広報活動の工夫 ①スローガンではなく、教育活動の結果を示すスタイルで外部広報活動の充実をはかる。 ②広報活動の一環として、「修道チャレンジ」と称して小学生を対象とした班活動体験を実施する。また、本校において現在募集が弱い地域、今後重要と考えられる地域（安佐南区・東広島・山口県東部等）に赴き、本校の認知度を高めることを目的として、校長の教育講演会、教頭による学校説明会を実施する。 ③修道ベーシック・ルーブリックの生徒による自己評価を集計し、その結果から導き出され | 中学教頭・広報室 中学教頭・広報室 中学教頭・広報室 | 通年 通年 通年 |
| | V. 生徒募集の充実 | | |

| | | | |
|----------|--|-----------------------------|---------------------|
| | <p>る修道生としてのスキルや価値観の高さを外部広報活動、内部広報活動に活かす。</p> <p>④激変する社会情勢に即時対応する本校の姿を詳しく共有するために学習塾対象の学校説明会を実施する。</p> <p>⑤本校の教育に対する保護者の理解とロイヤリティーを高めるために、1年から4年までの保護者を対象として学年別校長講演会を実施する。</p> | <p>中学教頭・広報室</p> <p>担当学年</p> | <p>通年</p> <p>通年</p> |
| VI. 修学支援 | <p>1. 修学支援</p> <p>①修道中学校修道高等学校奨学生をはじめとして、公的機関・民間団体の行う奨学制度を周知し、支援を行っていく。</p> | 教頭補佐 | 通年 |

【職員の部】

| 主要項目 | 具体策 | 所管部局 | 実施月 |
|--------------------------|---|-------------------|-----|
| I. 教員事務作業の点検と改革 | 教員の事務作業負担の軽減を目指し、2022年度は時間割作成作業を事務室担当に移管した。今年度もさらに業務を洗い出し、事務室に移管するよう検討を加える。 | 事務長, 総務課 【部長会】 | 通年 |
| II. 新本館等の建設 | 新敬道館及び新本館建設, 旧敬道館改修は若干の遅れはあるものの本年10月に完成し, 引き続き現本館の解体・北館改修工事に移行する予定である。 | 財務課 | 通年 |
| III. 寄付金制度の運用 | 同窓会・PTAとも連携を図り、引き続き新本館建築に向けての寄附募集を進める。 (4年計画の3年目) | 事務室 | 通年 |
| IV. 創始300年に向けて、記念事業の計画検討 | 引き続き、貴重書籍・収蔵品のデジタル化を進めるとともに、法人と連携を取りつつ、学園史の編纂と記念事業を進める。 | 事務室 | 通年 |

2023年度 学校法人修道学園 事業計画
 (広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校)

| 主要項目 | 具体策 | 所管部局 | 実施月 |
|---|---|---------------------------------------|----------------------|
| I 協創教育の推進 | | | |
| 1. 教育目標達成の取り組み | ①スクールポリシーを公表し、本校の目指す学校像を内外に発信する。 ②本校で行うすべての教育活動を「協創教育」と位置付け、教育目標「グローバル・イノベーション・リーダーの育成」の達成を目指す。 ③教科「探究」を協創教育の基軸とし、各教科学習、GCP（グローバル・コンピテンス・プログラム）、国際理解教育、広島修道大学との連携などの取り組みを通して教育目標の達成に取り組む。 | 管理職、教務部 全教職員 教務部 協創教育部 | 通年 通年 通年 |
| 2. 「4つの力」(課題解決する力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成 | ①「4つの力の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用法について検討し、評価を試みる。また、「教科別ルーブリック」もブラッシュアップし、協創ルーブリックとの整合を図る。 | 教務部 | 通年 |
| 3. 「GCP」(グローバル・コンピテンス・プログラム)の導入・促進 | ①本校教育目標を達成するための教科横断型で特色ある授業のGCPを探究授業の中で取り組む。 | 協創教育部 | 通年 |
| 4. 国際理解教育の推進 | ①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ（グローバル基礎力）を育成する。 ②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。 | 協創教育部 協創教育部 | 通年 通年 |
| 5. ICTを活用した教育の推進 | ①ICTを活用した授業づくりや協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。 | 協創教育部 | 通年 |
| II 学力の向上 | | | |
| 1. 学力向上の取り組みの充実 | ①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。 ②授業を大切にするため、切り替えが素早くできる授業規律を徹底する。 ③一日の学びのスタートは朝読書にあると位置づけると共に、次年度に向けてそのあり方を検討する。 ④授業改善に向けた分析を行うため、生徒を対象としたアンケート調査を行う。 | 教務部 教務部、学年会 協創教育部 学年会 教務部 | 通年 通年 通年 通年 |
| 2. 「探究力」を目指す授業づくりの促進 | ①「エミット学習」(描く・観る・問う)やICTを活用した授業づくりを教員間で共有し、授業で取り入れる。 | 教務部 | 通年 |

| 主要項目 | 具体策 | 所管部局 | 実施月 |
|-----------------------------------|---|-------|-----|
| Ⅲ進路支援の強化 1. 組織的な進路支援の 取組み | ②参加型授業や探究的な学びを促進する授業の研究・実践を行う。 | 教務部 | 通年 |
| | ③新たな「探究」授業の深化を図り、その充実に取り組む。 | 教務部 | 通年 |
| | ①「進路シラバス」に基づいた取り組みを充実させていく。 | 進路支援部 | 通年 |
| | ②広島修道大学附属校推薦、総合型選抜、学校推薦型選抜などの対策案を企画・立案し、実施する。 | 進路支援部 | 通年 |
| | ③「協創スマート予備校」など、効果的な補習体制のもと、進路希望に応じた補習を実施する。 | 進路支援部 | 通年 |
| Ⅳ自立(自律)心の育成 1. 規範意識や倫理観の 育成 | ④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人面談を行い、進路実績につなげる。 | 進路支援部 | 通年 |
| | ⑤広島修道大学附属校推薦制度の基準の見直しについて検討する。 | 進路支援部 | 通年 |
| | ①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」(身だしなみ・掃除・挨拶・時間)を合言葉にし、徹底を促す。 | 生徒支援部 | 通年 |
| 2. 学校生活の活性化 | ②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」(高みを目指す)につながる取り組みを実施する。 | 生徒支援部 | 通年 |
| | ③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの順守を徹底させる。 | 生徒支援部 | 通年 |
| | ①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営することで、文化祭、体育祭、協創コンテストなどの行事の内容の充実を図る。 | 生徒支援部 | 通年 |
| Ⅴ教育力の向上 1. 教員研修の体系化及 び実施 | ②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。 | 生徒支援部 | 通年 |
| | ③限られた校内環境の中で、生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう取り組む。 | 生徒支援部 | 通年 |
| | ①初任者のための「メンター制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導や助言を行う。 | 教務部 | 通年 |
| 2. 公開研究授業の実施 | ②毎月1回水曜日の放課後を研修日とする。当日は短縮授業とし、研修年間計画に基づいて実施する。マネジメント、授業力向上等、多様な研修を実施する。 | 教務部 | 通年 |
| | ①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する | 教務部 | 11月 |

| 主要項目 | 具体策 | 所管部局 | 実施月 |
|---------------------|---|-------------------------|------------------------|
| 3. 授業評価の実施 | ①日々の授業について、外部評価者や生徒による評価を行い、得られた評価と助言に基づき授業力の向上を図る。 | 教務部 | 通年 |
| 4. 評価指針の作成 | ①授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。 ②「学校評価アンケート」（生徒、保護者、教職員）を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。 | 教務部 教務部 | 通年 7月、2月 |
| 5. 指導と評価の一体化の取り組み | ①新学習指導要領の導入に伴って、学習指導と学習評価の一体化の取り組みをする。 | 教務部 | 通年 |
| VI生徒募集の充実 | | | |
| 1. 戦略的広報活動の実施 | ①オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。 ②ウェブ（ホーム）ページ及びSNSでの発信をこれまで以上に充実させる。 ③小・中学校や塾訪問の事前準備を入念にすると共に、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。 | 企画広報部 企画広報部 企画広報部 | 6月～11月 通年 5月～11月 |
| VII学校組織力の強化 | | | |
| 1. 組織体制の充実 | ①中期事業計画に基づいた年度事業計画を踏まえて、各部が主体的に考え、行動できる体制を構築する。また、その振り返りを全教員で共有する。 ②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成し、実施する。 ③研修主任及び中高一貫教育担当を中心に、教職員研修及び中高一貫教育体制の充実を図る。 | 各部 管理職、教務部 教務部 | 通年 通年 通年 |
| 2. 人事評価の実施 | ①適正な評価に基づいて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として策定した「キャリア・アップ・システム」（人事評価制度）を活用し、教職員の成長を支援する。 | 管理職 | 通年 |
| VIII事務室の機能強化 | | | |
| | ①「キャリア・アップ・システム」（人事評価制度）を活用し、事務室の企画、財務面の機能強化を図る。 ②教職協働の考え方にに基づき、事務職として学校経営に積極的に参画する意識の醸成を図る。 ③施設・設備中長期保全計画に基づき、計画 | 事務室 事務室 事務室 | 通年 通年 通年 |

| 主要項目 | 具体策 | 所管部局 | 実施月 |
|------|---|------|-----|
| | 的な施設・設備の維持管理に努める。 ④教職員の勤務管理を適切に行うと共に、 健康の保持増進に努める | 事務室 | 通年 |